

大賞

シャープ株式会社 (NPO 法人気象キャスターネットワーク)

シャープは、次代を担う子供達への地球環境問題の啓発を目的に、テレビやラジオなどの気象報道番組で活躍する気象キャスターにより組織される NPO 法人気象キャスターネットワークとのパートナーシップにより、北海道から沖縄まで全国各地の小学校において、それぞれの専門性を生かした講義、実験を通して効果的な環境教育を実施している。

●企業と NPO の協働による環境教育の実施

この環境教育プログラムでは、シャープと気象キャスターネットワークの役割分担により、全体としての流れと一貫性のある授業を行っている。

気象キャスターネットワークの講師は、環境問題に対する理解、認識を高めるという観点から、科学的なデータや事例などを用いて地球温暖化に関する講義と実験を行う。具体的には、人工衛星から見たハリケーンの動画や授業実施校の地域の気温の変化などをもとに、地球規模の気候の変化、地域レベルの変化などを説明。また、CO₂ が熱を吸収しやすい性質を持つことを確かめる実験を行い、地球温暖化の現状やメカニズムについての理解を促進する。

シャープの講師は、新エネルギーやリサイクルなどに関する授業を通じて、環境に配慮した行動実践に結びつける。新エネルギーについては、自然エネルギーの紹介、太陽光発電のセルの実物を使った実験などを行う。リサイクルに関しては、天然資源枯渇問題、3R の重要性、環境ラベル、リサイクル原料を使用した製品購入の重要性などについて説明し、家電リサイクル工場で行われている資源分別のミニチュア装置を使った実験などを通して、理解と行動を促している。

このほか、生物多様性に関わる授業として、環境教育を受けた子どもたちを対象に、里山保全を行っている森（シャープの森）を活用して、野外環境教室を 2009 年から試行実施している。



新エネルギーの講義と実験



ソーラーパネルを使って電気を作る実験

●継続的な教育の実施と活動の充実

環境教育の実施にあたっては、全国各地の気象キャスター約 100 名、シャープの営業拠点の社員から選抜した約 300 名の講師を配置し、継続的に地域に密着した教育活動を進めていく体制を整えている。また、講師の質の確保とレベルアップを図るため、講師育成研修システムを整備している。

2006 年 10 月のプログラム開始以降、年間約 500 校の小学校で教育を実施しており、累計の学校数は 1,369 校、受講児童数は約 92,120 名に達している（2009 年 9 月時点）。受講した子どもたちから年間 3,000 通を超える手紙が寄せられており、授業が省エネやリサイクルに対する意識の向上や日常生活の中での行動促進につながっていることがうかがえる。また、このプログラムを年間の授業計画の中に組み込む学校も増えてきている。

シャープでは、授業のフォローアップならびにコミュニケーションの促進を目的とするウェブサイト「みんなで ECO ファン」を運営している。このサイトでは、授業を受けた子どもたちからの手紙の紹介や質問への回答、講師のコラム、エコライフの取り組み紹介などにより教育活動との相乗効果を生み出し、環境に配慮した行動を促している。



授業を受講した児童からの手紙

同社では、日本での活動を通じて蓄積したノウハウをベースに、海外でも子どもたちを対象とする環境教育活動を展開している。これまでに中国、米国、マレーシアなどで、各国の状況を踏まえた環境教育を行っており、今後も国内外における活動の拡充を図っていく計画である。